本 大 会 の 見 ど こ ろ

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟
関東甲信越ブロック
Ａリーグ部長　佐倉　文彦

関東甲信越ブロック選手権は、本年は第20回目を迎え、10都県の持ち回りの2周目が今大会で終了します。スタンダード、ラテンとも日本のトップクラスが出場する、文字通り関東甲信越ブロックのチャンピオンを決める大会です。

関東甲信越ブロック選手権スタンダード、ラテンとも準決勝進出者には来年の三笠宮杯の出場権が与えられます。また関東甲信越ブロックランキング対象競技会として最も高いポイントが割り当てられている競技会でもある為、本大会の上位進出の意義は大きく、ファイナル進出を目指して選手たちは熱い戦いを繰り広げます。

個人戦のラテン部門では、前回までのチャンピオンが欠場のため、出場する全選手に初優勝のチャンスがあります。先日の仙台グランプリで3位に入賞した五月女・五月女組、同じく仙台GPで決勝に進出した金井・甘利組も昨年度関東甲信越ブロックランキング1位の実績もひっさげて初優勝を目指します。そして、本年度の全国ランキングで現在同点2位の名越・名越組、海老原・遊佐組のパフォーマンスも楽しみです。

次にスタンダード部門ですが、前回優勝の山田・秋山組が連覇を目指します。これを阻止すべく、地元神奈川県の星、小嶋・盛田組が満を持して登場します。4年ぶり4回目の優勝を飾ることができるか、とても楽しみです。躍進著しい五月女・五月女組（年間ランキング現在4位）、棚橋・盛田組（年間ランキング現在5位）がさらにパワーアップしてどんなパフォーマンスを見せてくれるか、こちらも楽しみです。昨年度関東甲信越ブロックランキング1位の金井・甘利組の演技にも期待が高まります。

関東甲信越ブロック選手権の準決勝・決勝戦では、絶対評価方式である新審判基準での採点が行われます。この採点方式は、JDSFが考案し、世界選手権等世界の大きな大会でも採用されている方式です。この客観的な採点方式がダンススポーツの採点方式として今後の主流になって行きますので、是非観客の皆様もこの採点方式についての理解を深めてください。

また、本大会の特徴として団体戦があります。関東甲信越ブロックの10都県が16歳以上、シニアⅠ以上、シニアⅡ以上、シニアⅢ以上、フリーの5つの年齢層で代表を選び、定められた種目を担当し、スタンダード、ラテン、総合で争います。上位に食い込むには、すべての年齢層に安定した力を持つ選手の存在が必要です。

各選手2区分までの重複出場が可能ですので、各都県の戦略も見どころです。また、応援合戦は、関東甲信越ブロック以外の審判員によって優秀応援チームが1位から3位まで選ばれます。こちらの戦いも興味深いところです。

過去の大会では、東京都が18回中13回総合優勝（7連覇中）と圧倒的な強さを見せています。昨年準優勝の神奈川県は、過去4回の優勝経験もあり実力も申し分ありません。地元開催の大きな声援を受けて、東京都の史上初の8連覇を阻止することができるか、皆さんも応援をお願いします。

一昨年まで4年連続2位だった埼玉県は、昨年は1つ順位を落として3位でしたが、今回は巻き返しを狙っています。新潟県も一昨年の地元開催で見事総合3位入賞を果たしており、昨年は4位と一つ順位を落としましたが、好調が続いています。栃木県は、昨年は地元開催ということもあり、6位→5位と徐々に順位を上げてきており、今年も上位入賞を目指します。

千葉県も若手の有力選手を有して復活を目指しています。長野県、茨城県、群馬県、山梨県もチームワークで上位入賞を狙っており、団体戦の結果の行方はとても楽しみです。各都県代表の名誉を背負った選手には大きな声援が送られ、毎年、団体戦は大いに盛り上がります。

観客の皆さん、どうかお気に入りの選手と都県代表チームに温かいご声援をよろしくお願いいたします。